

専大ボクシング部・小坂監督に聞く／BOX

2016.5.13 13:39

関東大学ボクシング2部リーグに所属する専大。今年、創部90周年を迎えた、歴史あるボクシング部の一つ。OBには現WBCバンタム級チャンピオン・「神の左」山中慎介がいる。昨年、3部リーグ優勝、入替戦で2部リーグ最下位の早大に4対3で勝利し、2部リーグ復帰を果たした。その専大ボクシング部を指揮する小坂則夫監督から、5月14日(土)に開幕する第69回関東大学ボクシングリーグ戦について話を聞いた。(岩崎仁)

——今年の目標と部の雰囲気は

小坂則夫監督「今年は2部リーグに復帰したばかりのため、まずは2部残留だが、上位校といい勝負をするかもしれない。部の雰囲気は、真面目にボクシングに取り組む学生が増えてきている。かつては、授業も練習も出なくなってしまう、大学を辞めてしまう学生がいた。部のキーマンは主将の乙川祐太(高志)だ」

——普段の練習や日常生活は

「部員は「生田寮」に入って合宿生活を送っている。夜間部の部員もいるため、練習は朝10時からの2時間と、夕方18時からの2時間の2パターンがある。ロードワークは夜間の学生と昼間の学生とでは生活のペースが違うため、それぞれで走っている。そのため、部員全員で練習するのは土曜日と、リーグ戦直前、3月に行う合宿となる。シーズンオフから体幹トレーニングも持続している」

——高校生のスカウトや部員の出身地、コーチの体制について

「専修大学で強くなりたい選手をスカウトしている。世界チャンピオンの山中慎介や、北京五輪代表の川地将嗣は知人の先生から紹介を受けるなどして、彼らの性格、教え方を考慮して専大が合っているのでは、ということでスカウトした。コーチの体制については、土曜日にOBが来る以外は私一人。各部員がやらなければいけないこと、修正すべきことを紙で貼り出し、たまにOBが来ても、各部員の課題が共有されているため、バラバラなアドバイスをせずに各部員に対して指摘すべきポイントについてアドバイスできる。前監督の並木信明さんが部長となり、大学との交渉などを全て引き受けてくれるため、大変助かっている」

——学生時代にボクシングに取り組む学生に対して

「強くなりたいと思う気持ちを持ち続けて練習して欲しい。同じ練習の繰り返しでも飽きることなく、常に一つずつ課題を克服し、地味な練習で時間がかかるかもしれないが、強い意志を持って自分の欠点を修正していくように頑張してほしい」

——監督にとっての関東大学ボクシングリーグ戦とは

「リーグ戦は唯一、個人競技であるボクシングでワクワクする団体戦だと思う。」

自分のことで記憶に残っているのは、高校の終わりからボクシングを始め、ほぼ大学から始めたような状況にも関わらず、1年生の時に入替戦で2部リーグ優勝校の東農大と4対4で迎えた勝敗が決定する最終試合に出場し、勝利したこと。当時の監督からは試合に勝利しても、『当たり前だ』と褒めてもらうことはなかったが、入替戦後に私の高校の先生に「小坂に助けられた」と電話していたことを後で知った」

専修大学ボクシング部

今年で創部90周年。1部リーグ優勝1回。OBは現WBC世界バンタム級王者・山中慎介や元北京五輪代表・川内将嗣ら

小坂則夫監督

1953年11月20日生まれ。岩手県出身。盛岡工業高校時代は陸上部。高校卒業間近にボクシングを始める。日大ボクシング部時代は全日本選手権ウェルター級3位



Copyright (C) 2016 SANKEI DIGITAL INC. All rights reserved.